## MAVIC DROON 活用

## Mavic Mini



Key Feature 超軽量199 g

最報車199 g 最大飛行時間 18分 最大伝送距離2 kmのHD動画伝送 ビジョンセンサーとGPSによる正確なホバリング 3軸ジンバル搭載 2.7Kカメラ 簡単撮影&編集

## Mavic 2 Zoom



光学2倍ズームカメラ ロスレス4倍ズーム フルHD動画 最大伝送距離8kmの1080p動画伝送(日本国内では5km) 最大飛行時間31分 全方向障害物検知 ハイパーラプス

Miniは200g以下のため、飛行免許、区域の制限がありません。





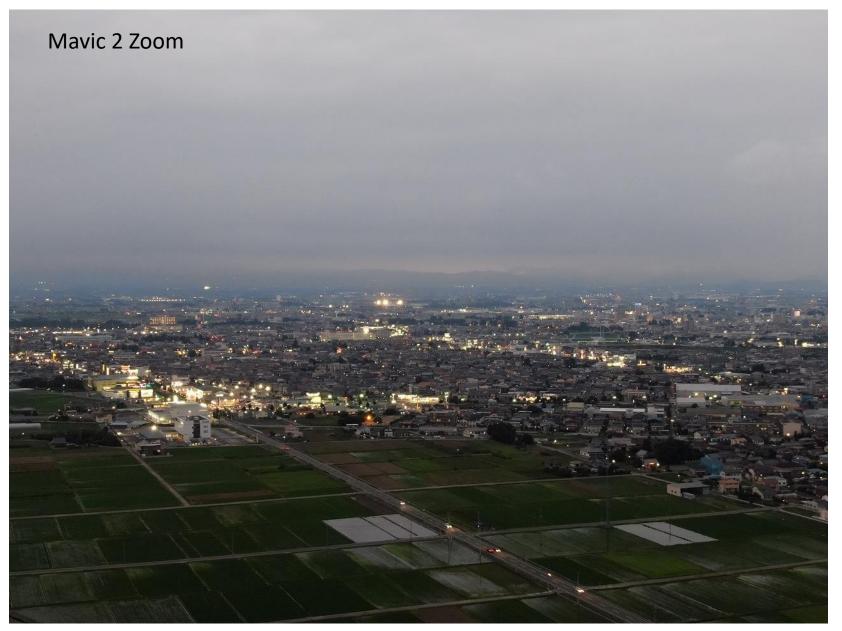




Mavic Mini Mavic Mini Fly More Combo Item 46,200円 59,400円  $\times$  1 Mavic Mini  $\times$  1 送信機  $\times$  1  $\times$  1 インテリジェントフライトバッテリー  $\times$  1  $\times 3$ 予備プロペラ(1組)  $\times$  1  $\times 3$ Micro USBケーブル  $\times$  1  $\times 2$ ジンバルプロテクター  $\times$  1  $\times$  1 RCケーブル(Micro USBコネクター)  $\times 1$  $\times$  1 RCケーブル(USB-Cコネクター)  $\times$  1  $\times$  1 RCケーブル (Lightningコネクター)  $\times$  1  $\times$  1 予備コントロールスティック(1組)  $\times$  1  $\times$  1 予備ねじ  $\times$  6  $\times$  18 ドライバー  $\times$  1  $\times$  1 360°プロペラガード  $\times$  1 2WAY充電ハブ  $\times$  1 DJI 18W USB充電器  $\times$  1 キャリーバッグ  $\times$  1









■ 定期報告制度における赤外線装置 法による外壁調査 実施要領(案)

- 1. 総則
  - 1. 1 目的
  - 1. 2 適用範囲
  - 1.3 用語の定義
- 2. 実施者
- 3. 赤外線装置法による外壁調査
  - 3.1 赤外線装置法による外壁調 音の概要
  - 3. 2 事前調査
  - 3. 3 調査計画の作成
  - 3.4 赤外線装置法の適用条件の 確認
  - 3. 5 打診法との併用による確認
  - 3.6 調査の実施
  - 3.7 熱画像による浮き・はく離の判定
  - 3.8 報告書の作成

■ ドローンを活用した建築物調査 実施要領(案)

- 1. 総則
  - 1. 1 目的
  - 1. 2 適用範囲
  - 1.3 用語の定義
- 2. ドローンによる建築物調査の実施 体制
- 3. ドローンによる建築物調査の手順
- 4. ドローンの飛行における安全確保
- 5. 建築物調査におけるドローンの適 用限界の把握
- 6. 建築物調査におけるドローンの調査精度と適用範囲の確認
- 7. ドローンによる建築物調査の方法
- 8. ドローンによる建築物調査の報告

国土交通省は、建築基準法等に係る技術基準の整備・見直しを図ることを目的とした建築基準整備促進事業の調査結果(平成30年度実施分)について、2019年4月24、25日の両日、すまい・るホール(東京都文京区後楽1-4-10)で報告会を開催した。

## 外壁調査について

- ①環境条件や撮影条件等の適用範囲を十分に考慮して調査
  - が行われた場合、赤外線装置法による診断結果は調査員
- による打診調査の結果に相当することを確認。
- ②赤外線装置法を用いた外壁調査を実施している技術者へのアンケート調査を行い、技術者個人の経験等が外壁調査実施において大きな判断要素として加わっている実態を確認。
- ③ドローンに関する法令、安全な運用、行政手続き、操縦 者の資格、過去の事故事例、外壁調査に関する課題など について整理。
- ④ドローンを活用した外壁調査に関しては、赤外線装置法 の適用範囲と精度が確保されることを前提条件とした場 合には、地上で実施する調査とほぼ同等の利用が可能で あることを実証実験(試験体)により確認。